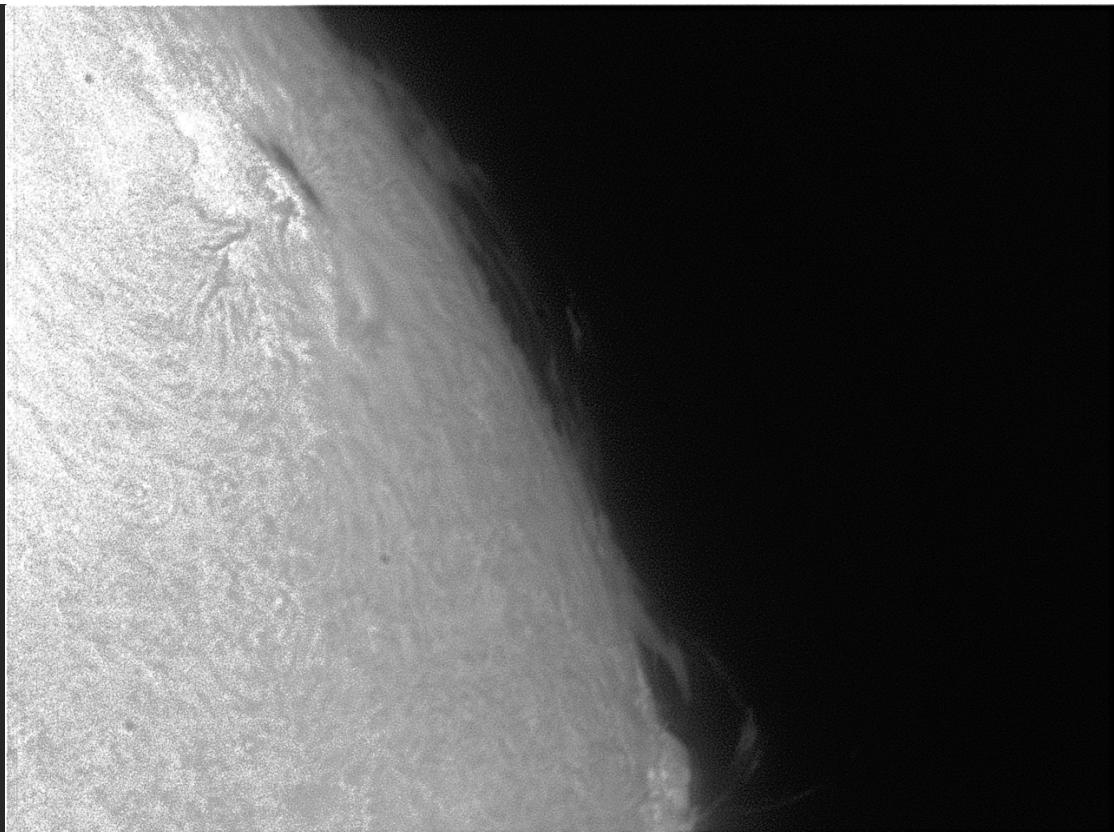


# 天文教育

11  
2017

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



<特集>つがる市クレーター騒動

<論文>紙製 169 面体プラネタリウム工作キット “Kent Star” の開発

<投稿>高等学校における総合的な理科科目設置に関する考察／

小学校での天体観望会の企画方法／アクロマート屈折望遠鏡を  
超色消しにする方法 <報告>天文教育フォーラム報告

天文教育普及研究会

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
  2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで 6~10 ページ程度。
  3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで 2~4 ページ程度。
  4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで 1 ページ程度。
  5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで 1 ページ程度。
  6. **表紙の写真**：タイトルと 400 字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
  7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。
- ・締め切りは 1 は原則として奇数月末日、2~7 は偶数月 15 日。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。
- ・広告掲載を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。
- ※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<http://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。  
インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。
- なお、2014 年 9 月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限※をかけた形で閲覧できるようになり、発行から 1 年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。
- ※今号「事務局からのお知らせ」の末尾をご参照ください。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願ひいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださいようお願いします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・充分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願ひいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

### 表紙の言葉

#### 9月10日のポストフレアループ

撮影日：2017年9月10日 午前9時10分 10秒間の動画をスタッフ。機材：望遠鏡 Kenko SE120 口径 12cm→8cm, 焦点距離 600 mm, フィルター Daystar QUARK, カメライメージングソース DMK41AU.AS.  
撮影者：三田祥雲館高校天文部 谷川智康。

太陽活動領域 NOAA12673 で、日本時間 9 月 6 日 21 時ごろ、X クラス 9.3 の近年では希に見る大規模フレアが発生しました。テレビ・新聞でも地球への影響の懸念を大きく報じ、広く社会の関心が集まりました。

三田祥雲館高校天文部は黒点スケッチに加え、

8 月より H $\alpha$  線フィルターを用いた観測を開始した矢先でした。週末であることを利用し 9 月 9・10 日は通常 1 日 2 回だった観測を、部員全員でリレーしながら 10 分おきの観測にし、NOAA12673 を中心に連続撮像しました。曇る時間が多かったですが、2 日間とも黒点付近の太陽表面が盛り上がり活発に活動する様子を観測することができました。太陽活動が静穏になってきた時期の突発現象に驚きました。私たちにとってはまさにビギナーズラックとなりました。写真は 9 月 10 日午前 9 時 10 分ごろに見えていたポストフレアループ（右下）です。左上の大きな黒点は NOAA12674 です。（撮影と文：谷川智康）